

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	宮崎県延岡市北川町川内名8307 (電話) 0982-46-2338		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年2月26日

【情報提供票より】 (平成21年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年11月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤13人, 非常勤1人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,800 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	211 円	昼食 211 円
	夕食	211 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年12月20日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	4	要介護2	4
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 83.33歳	最低 73歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊井内科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を山や川に囲まれ、自然の中にあるホームはログハウス作りで木の温もりが感じられる。「笑顔で寄り添う支援」のほか、各フロアごとの理念も作成し、利用者への想いが日々のケアに生かされ、利用者も穏やかな表情で、ゆったりとした時間を過ごしている。地域や行政、医療との連携も密で、医療機関の看護師との24時間の連絡体制も確立している。利用者へは「ドリームプラン」も設けられ、職員が利用者の希望、意向をなるべくかなえられるように努めるとともに、管理者、職員が一丸となりサービスの質の向上に日々取り組んでいる。また、法人内研修も実施しており、職員のスキルの向上にも取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	鍵をかけないケアの実践においては、周囲の状況も考え、職員は玄関を解放する時間も設けるよう努めている。災害対策は、夜間対応の連絡網が作成されているが、更なる取り組みが期待される。栄養摂取や水分確保の支援においては、食品成分カレンダーの利用による支援がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価を振り返りの機会ととらえ、運営推進会議やミーティングでの話し合いも随時行い重要視している。各フロアの責任者が職員への意見を聞き、まとめる形が取られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、随時の課題やホームの活動報告、地域との連携など議題は豊富であり、行政からの情報収集や福祉知見者からの意見をもらい、課題の解決策を見だし、日々のケアに生かしている。また、家族代表からの意見も出され、ホームのサービスのあり方、活動に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族に対しても傾聴の姿勢を持ち、積極的に話し掛けるよう努め、意見や苦情が言いやすい雰囲気作りに努めている。以前は、言葉遣い等の苦情も出ていたが、今は改善されている。運営推進会議においても意見が出されるなど、ホームの運営においてサービスの質の向上等に生かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者、職員は地域の方が多く、運営者が地域の公民館長を務めるなど地域とのかかわりが深い。話し合いで、災害等には地域の消防団も駆けつけてもらえる段取りが出来ている。また、地域の行事には参加し、ホームの行事に招待するなど、日常生活における地域との連携が図られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体の理念とは別に、ユニットごとに「ダメを言わない」「遠くから利用者と呼ばない」という利用者への、質の高いケアのための理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットごとにロッカーに掲げたり、毎朝唱和するなどし、管理者、職員が共に理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、ホームの行事にも地域の方に参加してもらうなどしている。また、ホームの運営者が地域の公民館長を務めており、地元出身の職員も数人いるので地域との交流が積極的に図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとに、責任者がまとめている。管理者、職員共に評価の意義を理解し、自己評価を振り返りの機会、気づきの機会ととらえている。運営推進会議やミーティングでも話し合い、日々のケアのあり方に評価を生かした取り組みがなされている。	○	管理者、責任者、職員は十分に評価の意義を理解されているが、責任者がまとめる形となっているため、職員全体で自己評価を行い、より評価の意義を理解し、取り組まれることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度ホームで行われ、ホームの活動報告やインフルエンザ対策、その時々の議題など、行政の代表や家族代表などによるメンバーで活発な意見交換がなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも管理者と行政との密な関係が図られており、随時の情報収集なども行われ、サービスの質の向上に向けての取り組みが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りに、最近の写真の掲載、担当職員による近況報告の手紙を添えるなどし報告がなされている。随時の家族の来訪時にも積極的に話をするなど、家族との関係も密に図られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情等は最近はないが、いつでも言ってもらえる雰囲気作りに心がけている。職員は、言葉遣いにも気をつけ、家族に接している。相談、苦情箱の設置もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、利用者へのダメージを少なくするよう敷地内の他事業所職員のサポートもある。職員も常日ごろの利用者との関係作り、心掛けにより、ダメージを防ぐ配慮が出来ている。また、異動や離職を最小限に抑える努力もなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、管理者から認知症対応に関する講習もあり、ミーティングを利用した随時の研修会も行われている。管理者自らもリーダー研修会に参加し、職員は他のホームへ研修に行くなど、より良いケアのための職員を育てる取り組みが積極的になされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の異なる4つのホームと訪問職員研修などを行ったり、利用者も含めた花見やバーベキューなど、同業者との相互訪問、活動を通じてサービスの質の向上が積極的に行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が何度か自宅へ訪問し、徐々になじみながら利用が出来るよう取り組んでいる。また、生活歴を聞くなど、利用者のごとも事前に理解したうえでの入居となっている。事前見学などにも対応し、家族、本人が納得して利用できるような工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念でもある「笑顔で寄り添う」を職員は日々実行し、相手の立場に立ったケアの実践により一緒に過ごしながら、本人から学び、支えあう関係作りが築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者には「ドリームプラン」があり、職員は利用者の思いや意向をできるだけ実行できるように努めている。職員は寄り添うケアを実践し、利用者の希望、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は担当制であり、利用者の意向、家族の意向を把握し、関係者との話し合いも持ち、それぞれの意見が反映された介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとに介護計画は見直されている。状態に変化が生じた際には、利用者を担当する職員、関係者との話し合いが持たれ、現状に即した介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「ドリームプラン」の実施や本人の意向に沿って、理美容や受診、デパートやレストランへの外出など個別の対応がなされ、柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月に1度の往診が行われ、かかりつけ医への受診支援も行われている。ホームとかかりつけ医との関係も築かれており、医療機関の看護師との24時間の連絡体制も確保され、適切な医療を受けられる支援が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの立地条件上、終末期の対応には制限が生じてしまうが、管理者、職員は重度化や終末期においての方針は共有できている。家族とも早い段階で話し合いを持ち、医療との連携も図られ、全員で方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者に対する言葉かけ、誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう心掛けている。記録においても個人情報の取り扱いには十分な配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者に寄り添い、その言動に対して「なぜ」という疑問を持ち、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援が出来るよう日々取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じ準備や配膳、後片づけなどの役割があり、職員と一緒にいる。摂食機能に応じた食事形態で、一人ひとりに合った対応をし、職員も同じ食事を取りながら、利用者の力量に応じた支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっているが、希望があれば毎日でも入れるような体制作りも出来ており、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援がなされている。入りたがらない利用者へも言葉掛けによる工夫で、入浴を楽しめるよう支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片づけなど状態に応じた役割があり、職員や利用者同士で会話を楽しみながら行っている。利用者同士のかかわりの中にも役割があり、張り合いや楽しみごとのある支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へ散歩へ出かけたり、ドライブへ行くなどの外出支援がされている。また、買い物、食事にも出かけるなど日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周囲の立地状況上、施錠を余儀なくされる現状ではないかと感じたが、ホームでは日和の良い日や職員の人員の状況により日中は施錠せず、見守りの体制を整え、鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、災害訓練が実施され夜間緊急用のフローチャート、連絡網も作成されている。地元出身の職員も多く、消防団との話し合いによる取り決めもなされており、地域の協力も得られている。	○	地域との連携は十分に取られているが、取り決めの念書等、書類として残されることが望まれる。また、夜間時の連絡網等も作成されているが、夜間想定訓練等を行うことも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の各担当者が、毎月食品成分カレンダーにて栄養チェックを行っている。排泄チェックも行い、一人ひとりの状態に応じた栄養摂取や水分確保の支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス作りで共用空間にも木の温もりが感じられる。季節に合った装飾もなされ、窓の向こうは見晴らしが良く、自然の風景が眺めらる。リビングには、ソファも置かれ利用者が居心地良くゆったりと過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や使い慣れた物が置かれ、本人が居心地良くゆっくりと過ごせるような工夫がされている。		

※  は、重点項目。